

## 第3章 関係機関ヒアリング調査

---

## 1. 調査の目的

伊勢原市の支援ニーズに応えるための地域の資源量及び今後必要となる資源量を把握するために、市内関係機関等を対象に簡易アンケート調査等を実施する。

## 2. 調査対象および調査方法

調査対象：伊勢原市内関係機関

調査方法：事前アンケート（メール配付、メール回収）※希望のあった団体は郵送配付・回収  
実地ヒアリング

## 3. 調査期間

事前アンケート：令和6年6月7日から令和6年6月21日まで

実地ヒアリング：令和6年6月27日から令和6年7月3日まで

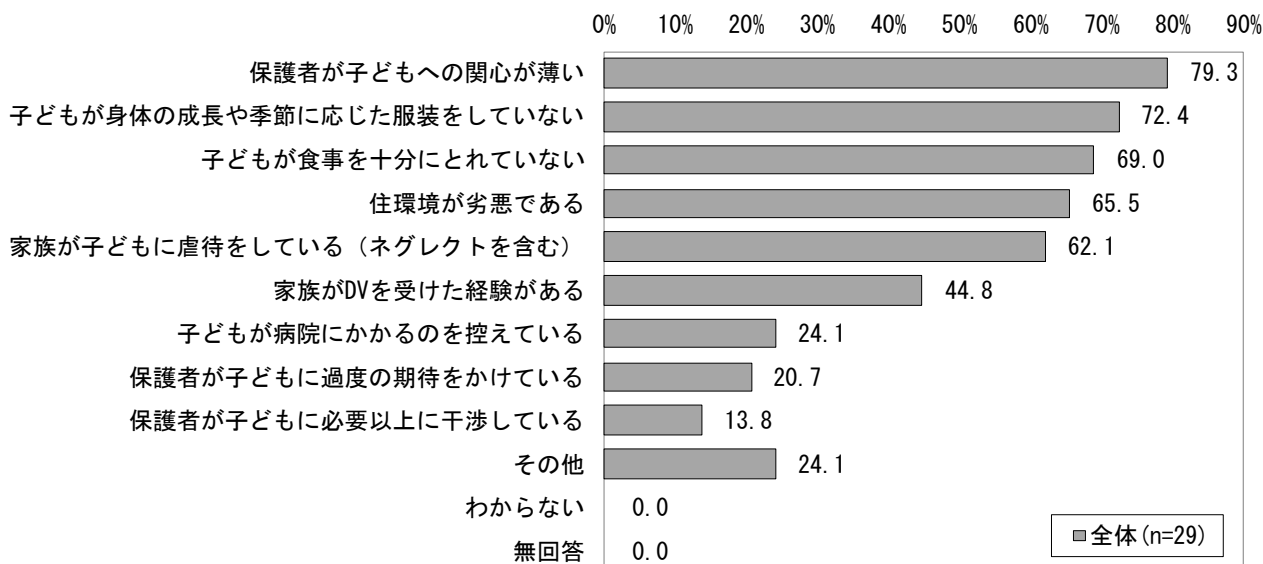
## 4. 事前アンケート回収率

対象	配付数	有効回答数	有効回答率
関係機関	32 通	29 件 (内郵送回収：4 件)	90.6%

## 5. 関係機関 調査の結果

### 問1 貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況は何だと思えますか。(いくつでも)

全体では、「保護者が子どもへの関心が薄い」が79.3%と最も高く、「子どもが身体の成長や季節に応じた服装をしていない」が72.4%、「子どもが食事を十分にとれていない」が69.0%と続いている。

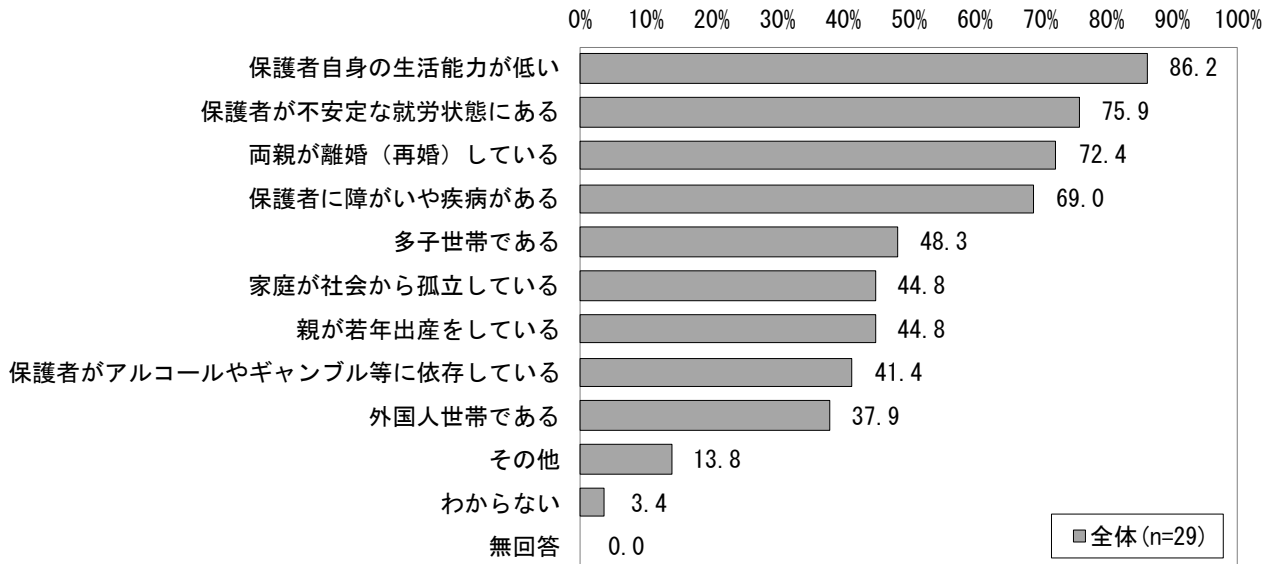


### ヒアリング回答結果

回答
各家庭の困難な状況については、次の2点の方法により把握したもの
① 学校で定期的(学期に1回程度)に実施している教育相談月間において、生徒一人一人に対しアンケートと面談を実施している
② 普段の言動、行動から気になる点を随時記録している
・「家に帰りたくない」という相談が多く、話を聞く過程で虐待やDVが発覚することがある
・進学重視の親は子どもを塾に行かせるため、子どもは目の前の点数に振り回されてしまい、本来の夢や希望が見えづらくなっている傾向がある
・子どもの関係の支払いは滞る一方、親が身につけている装飾品が高価であり、お金の使い方が疑問視されるケースがある
・普段は担任も務めていて、「教育相談コーディネーター」という肩書で、保護者や子どもの相談にもものっている
・現在該当するのは、母子家庭3世帯(全て母親+子)
① 入学当初から母子家庭
② 入学後、父親が死別し、その後母子家庭
③ 海外から母子で引っ越してきた母子家庭
・体温調節がうまくできていないのか、厚いのに長袖を着ていたり、服装が年間通して一緒
・生活保護世帯、ひとり親、外国籍の子どもを無料で就学面のサポートをしている
・目指す姿は「安心して勉強できる」こと
・おなか为空いては勉強できないため、飲み物やお菓子も用意している

問2 貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況の要因や背景は何だと思えますか。  
(いくつでも)

全体では、「保護者自身の生活能力が低い」が86.2%と最も高く、「保護者が不安定な就労状態にある」が75.9%、「両親が離婚（再婚）している」が72.4%と続いている。

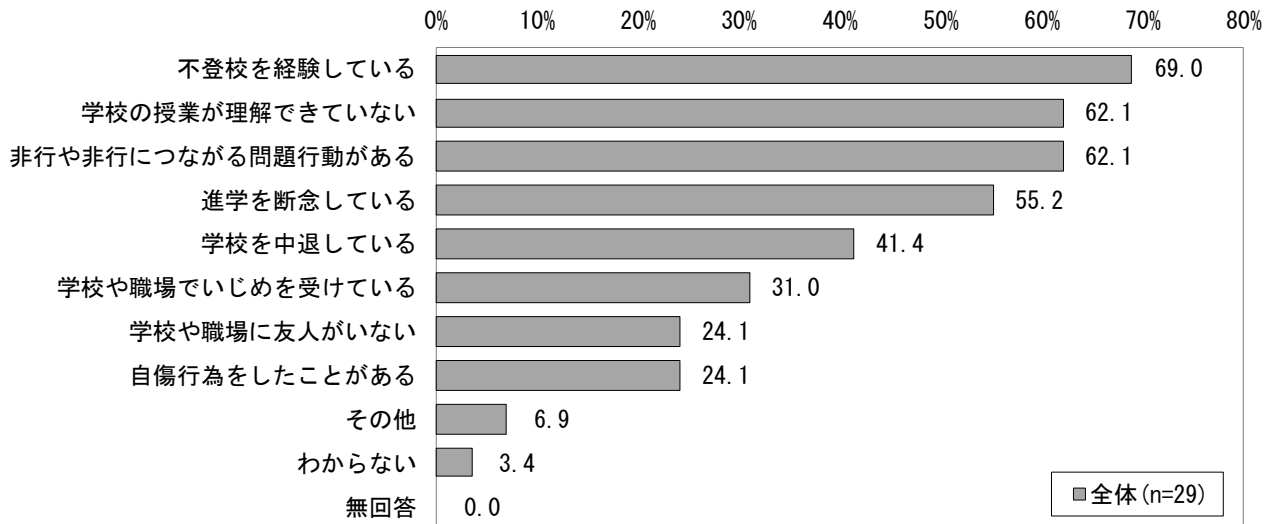


#### ヒアリング回答結果

回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいや疾病については、見方がいろいろとある</li> <li>・保険などで一般の人よりも多く収入を得ているケースもあり、実際に家庭訪問に行ってみると、高級車に乗っている事例もある</li> <li>・子育てではなく道楽にお金を使っているようなケースもある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡先の欄に両親の名前がないケースがあり（おそらく片親と推定しているとのこと）その割合は年々増えている気がする</li> </ul>
昔：1クラスに片手分程度
今：1クラスに両手分程度

問3 貧困状況にある子どもが多く陥る困難な状況として、考えられるものは何ですか。  
(いくつでも)

全体では、「不登校を経験している」が69.0%と最も高く、「学校の授業が理解できていない」と「非行や非行につながる問題行動がある」が、それぞれ62.1%と続いている。

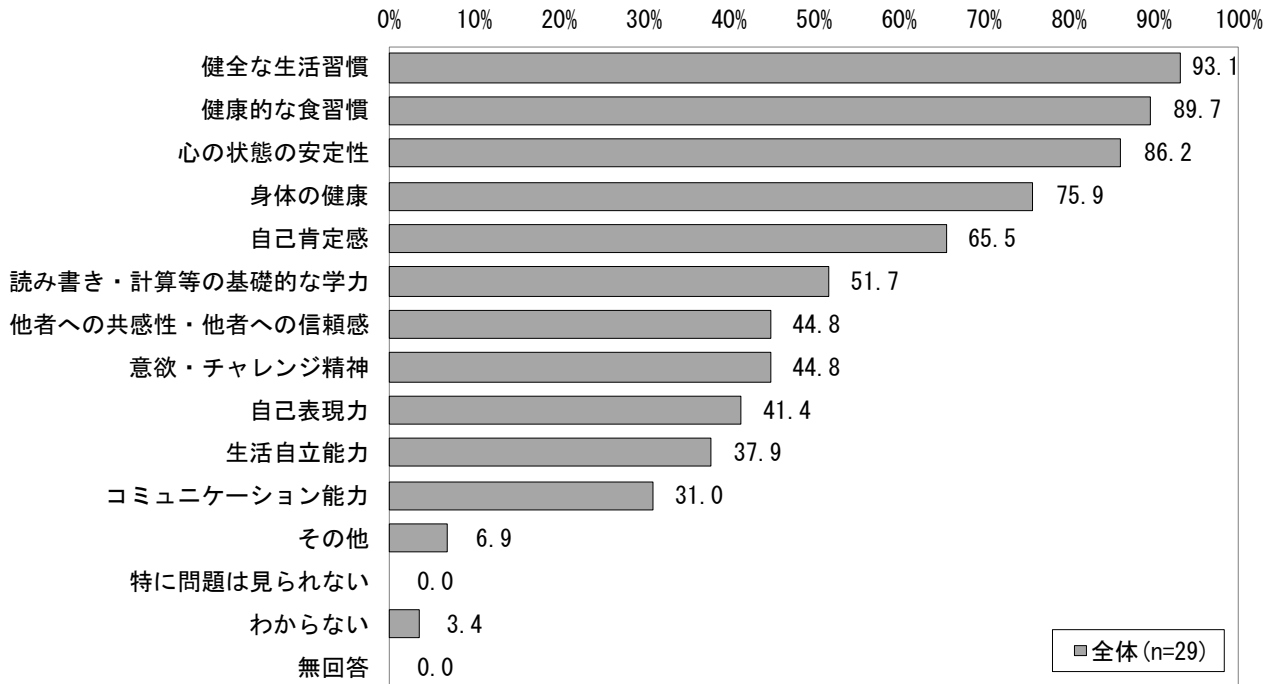


#### ヒアリング回答結果

回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧困に限った話ではないが、中学卒業後の進学先（定時制高校含む）で躓くケースは多い</li> <li>・ 公立が難しい場合でも、制度を利用して私立に通うことができる場合もあるものの、親同士が夫婦喧嘩ばかりしていてそもそも進学の相談すらできないなどの事例があり、しかたなく定時制高校に進学したケースも見ている</li> <li>・ 家庭環境が良ければ違った道があったのでは、と思う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学を断念している</li> <li>・ 奨学金制度の案内はするが、制度自体がわかりにくい、親が分かろうとしないなどから、進学に結びつかないケースもある</li> <li>・ 親からの過度のプレッシャーで、登校拒否や非行につながることもある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不登校の傾向にあるため、声掛けを増やしたり、昼休みに一緒に勉強したりしている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当人ではなく、お姉さんが非行に走っている事例があった</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非行、不登校につながるケースがある</li> </ul>

問4 貧困状況にある子どもはどのような項目において問題を抱えていることが多いと思いますか。  
(いくつでも)

全体では、「健全な生活習慣」が 93.1%と最も高く、「健康的な食習慣」が 89.7%、「心の状態の安定性」が 86.2%と続いている。

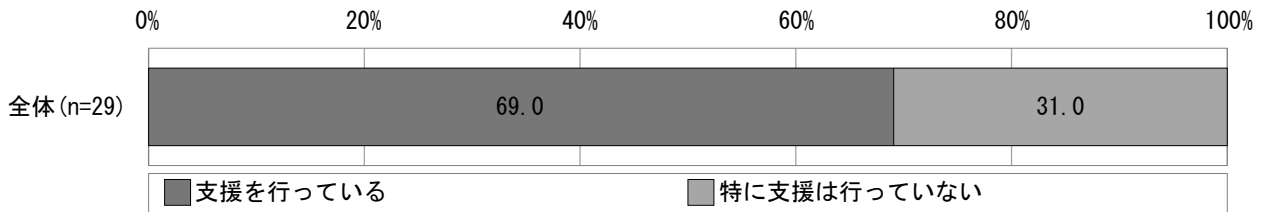


ヒアリング回答結果

回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お金の貧困」もあるかもしれないが、お金がある家庭でも「心の貧困」による影響は大いにあると感じている</li> <li>・「親の愛情」に左右されている部分もあるかと思う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年でトラブルにつながるのは、数人程度</li> <li>・これから親が離婚するという時期にご飯が喉を通らず、身体的にも精神的にもまいてしまう事例があった</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調面、勉強面に影響が生じている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食習慣を一番懸念している</li> <li>・ご飯が食べられないわけではないが、おかずが変わらず、毎日一緒</li> <li>・遠足はおにぎりだけというケースがあった</li> <li>・ご飯を全く食べていないわけではないが、1日3回の食事は取っていない様子</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係が安定しないと、落ち着いて勉強できない</li> <li>・相談することができない、苦手という子もいる</li> <li>・情緒不安定な部分を少しでも取り除いて、学習に集中できるようサポートしている (17:00~18:30 小学生、17:00~20:00 中学生)</li> </ul>

問5 あなた、又はあなたの所属する団体や機関では、貧困状況にある子どもや家庭に対し、支援を行っていますか。

全体では、「支援を行っている」が 69.0%、「特に支援は行っていない」が 31.0%となっている。



### ヒアリング回答結果

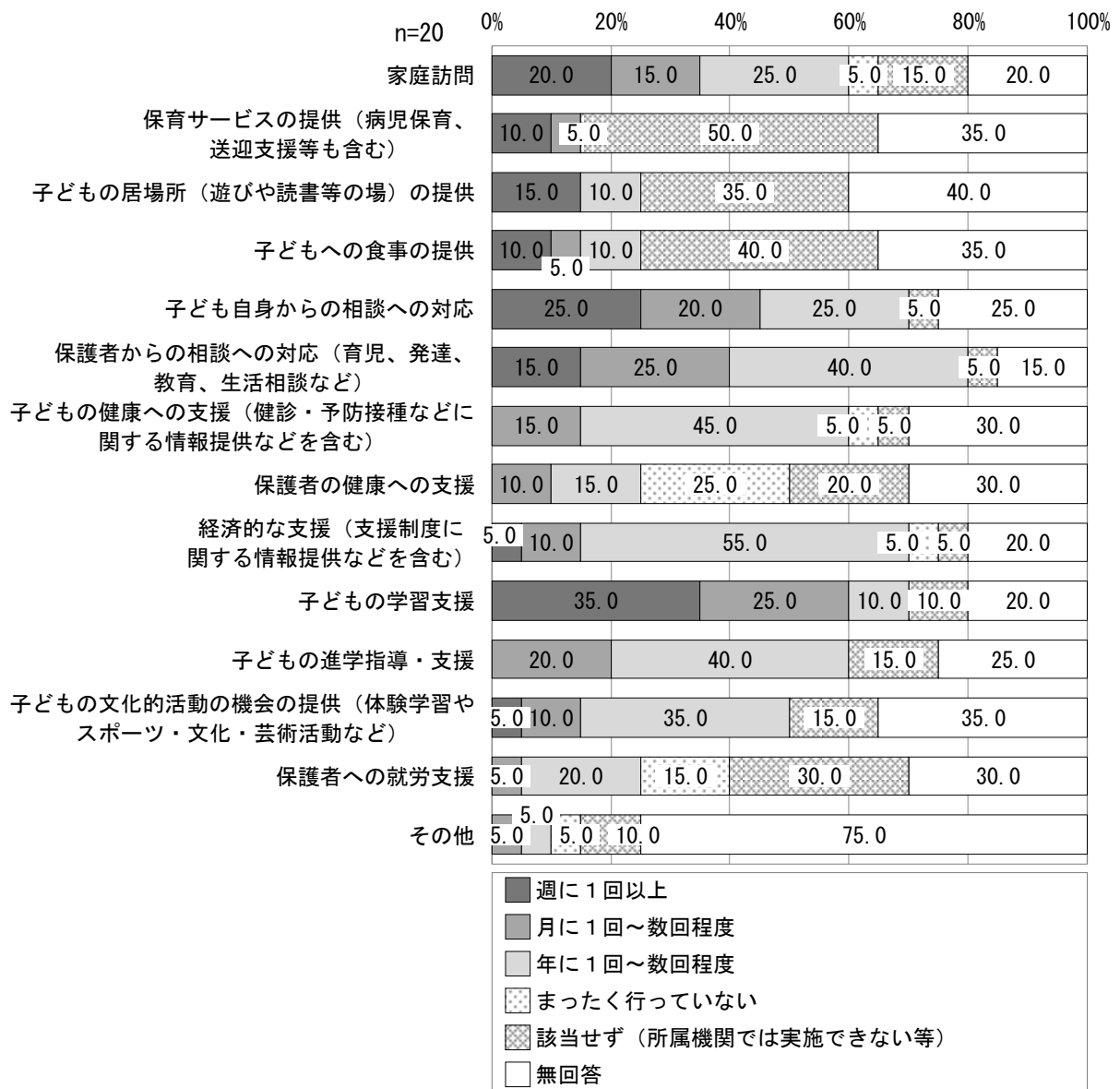
回答
・虐待やDVなどが発覚した場合には、児童相談所につなげたケースはある
・県立スクールカウンセラー1名、スクールソーシャルワーカー1名の計2名が生徒の相談にのっている
・スクールカウンセラーは、直接生徒や保護者との相談を担っている
・スクールソーシャルワーカーは外部機関との連携をとり、市等の外部機関につなぐ役目を担っている
・親から、または、子からの予約制で実施している
・当機関の場合、スクールカウンセラーは男性、スクールソーシャルワーカーは女性のため、性別の違いによって相談のしやすさに違いがでているような話も聞いている
・常に相談に乗ったり、必要に応じて家庭訪問にも行く
・こども家庭相談課、児童相談所が絡んだケースがある
・こどもに変化が生じた場合には、親へ連絡し、信頼関係を構築している

問5-1 あなた、又はあなたの所属する団体や機関では、貧困状況にある子どもや家庭に対し、どのくらいの頻度でどのような支援を行っていますか。(それぞれ1つ)

※問5で「支援を行っている」と回答した方に質問

支援を行う頻度で「週に1回以上」の割合をみると、＜子どもの学習支援＞が35.0%と最も高く、＜子ども自身からの相談への対応＞が25.0%、＜家庭訪問＞が20.0%と続いている。

また、「まったく行っていない」の割合をみると、＜保護者の健康への支援＞が25.0%と最も高く、＜保護者への就労支援＞が15.0%、＜経済的な支援（支援制度に関する情報提供などを含む）＞と＜子どもの健康への支援（健診・予防接種などに関する情報提供などを含む）＞と＜家庭訪問＞が、それぞれ5.0%と続いている。



ヒアリング回答結果

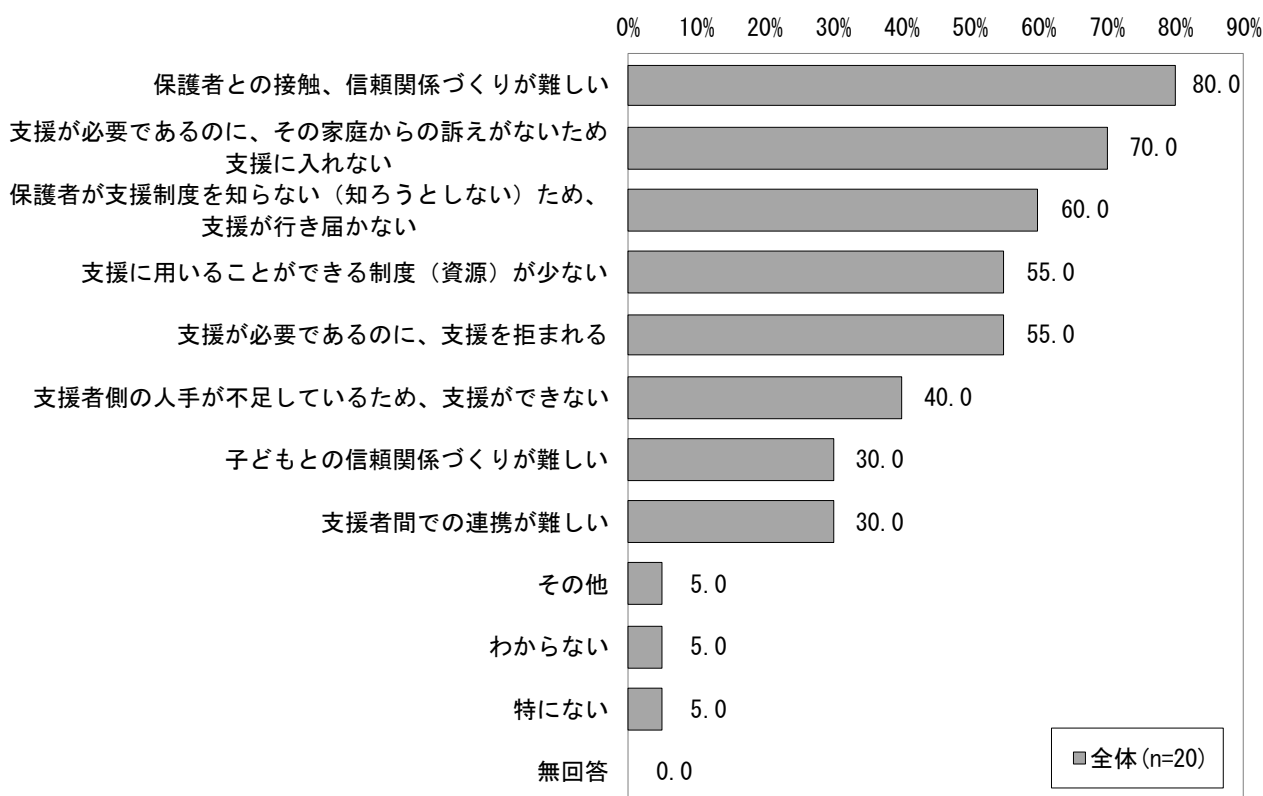
回答
・気づいたら都度対応している



問5-2 貧困状況にある子どもや家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。(いくつでも)

※問5で「支援を行っている」と回答した方に質問

全体では、「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい」が80.0%と最も高く、「支援が必要であるのに、その家庭からの訴えがないため支援に入れない」が70.0%、「保護者が支援制度を知らない（知ろうとしない）ため、支援が行き届かない」が60.0%と続いている。



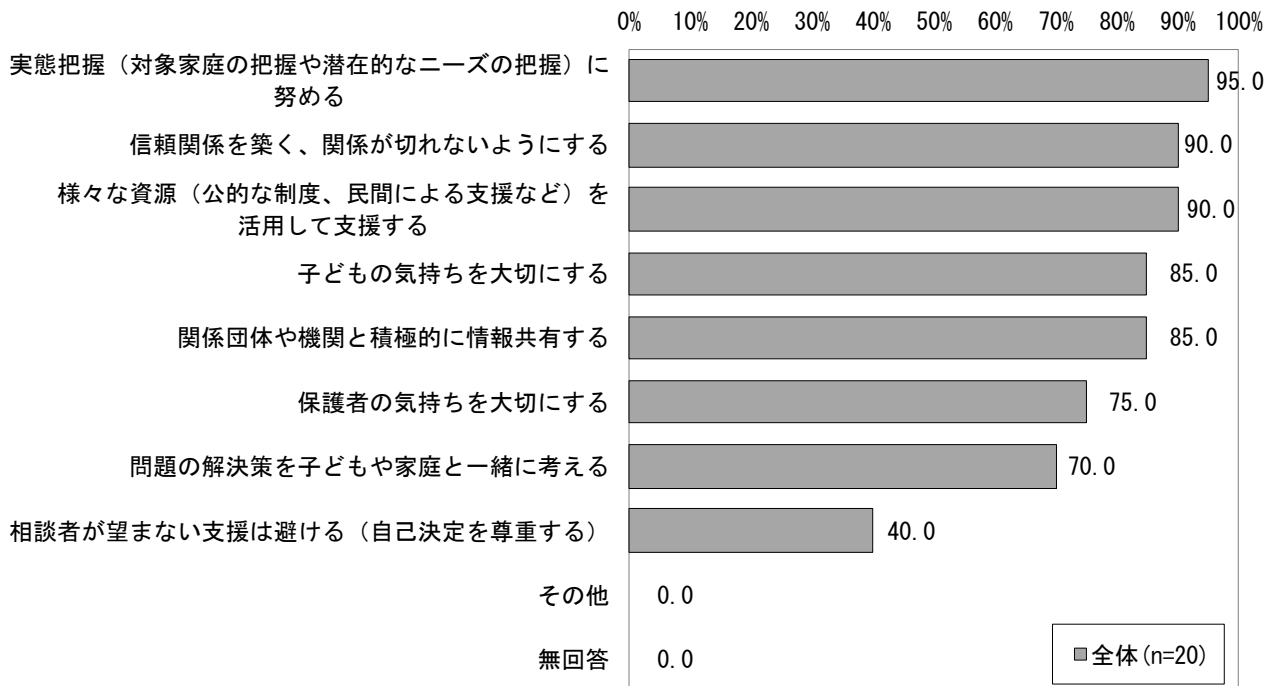
### ヒアリング回答結果

回答
・各家庭における認識の違いから、支援に入れないことがある
・保護者を支援することが難しい
・保護者から SOS ができれば、関係機関へつなげられる
・保護者と子の認識が違うことがある
・お母さんからすると当たり前のことでも、一般的にみると貧困の部類に入るようなことがある
・継続性の部分で、途中で支援が途切れてしまうことがある

問5-3 貧困状況にある子どもや家庭を支援する際に、あなた、又はあなたの所属する団体や機関で工夫されていることや心がけていることは何ですか。(いくつでも)

※問5で「支援を行っている」と回答した方に質問

全体では、「実態把握（対象家庭の把握や潜在的なニーズの把握）に努める」が95.0%と最も高く、「信頼関係を築く、関係が切れないようにする」と「様々な資源（公的な制度、民間による支援など）を活用して支援する」が、それぞれ90.0%と続いている。



### ヒアリング回答結果

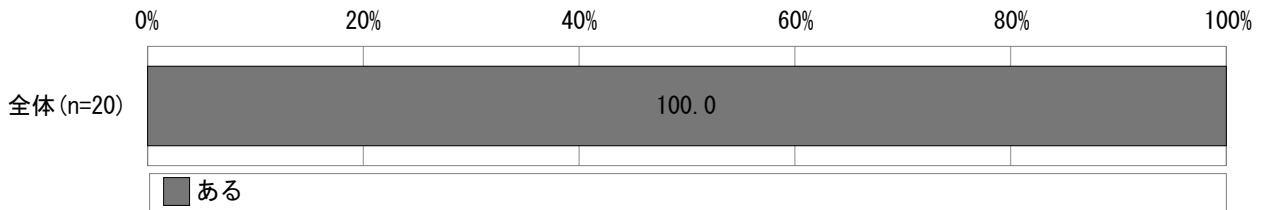
#### 回答

- ・ 児童相談所が一番多い
- ・ 貧困の関係は、学校だけでは解決できず、外部機関と連携ありきで考えている
- ・ 信頼関係を築くため、保護者に事前に連絡している
- ・ 学校の様子を伝え、自宅でも変化がないか確認してもらっている（頻度：週1～月1程度）

問5-4 あなた、又はあなたの所属する団体や機関では、普段、貧困状況にある子どもの支援をする際に、他の部署・団体・機関と連携することがありますか。

※問5で「支援を行っている」と回答した方に質問

すべての回答が「ある」となっている。



※「ない」との回答は見られない

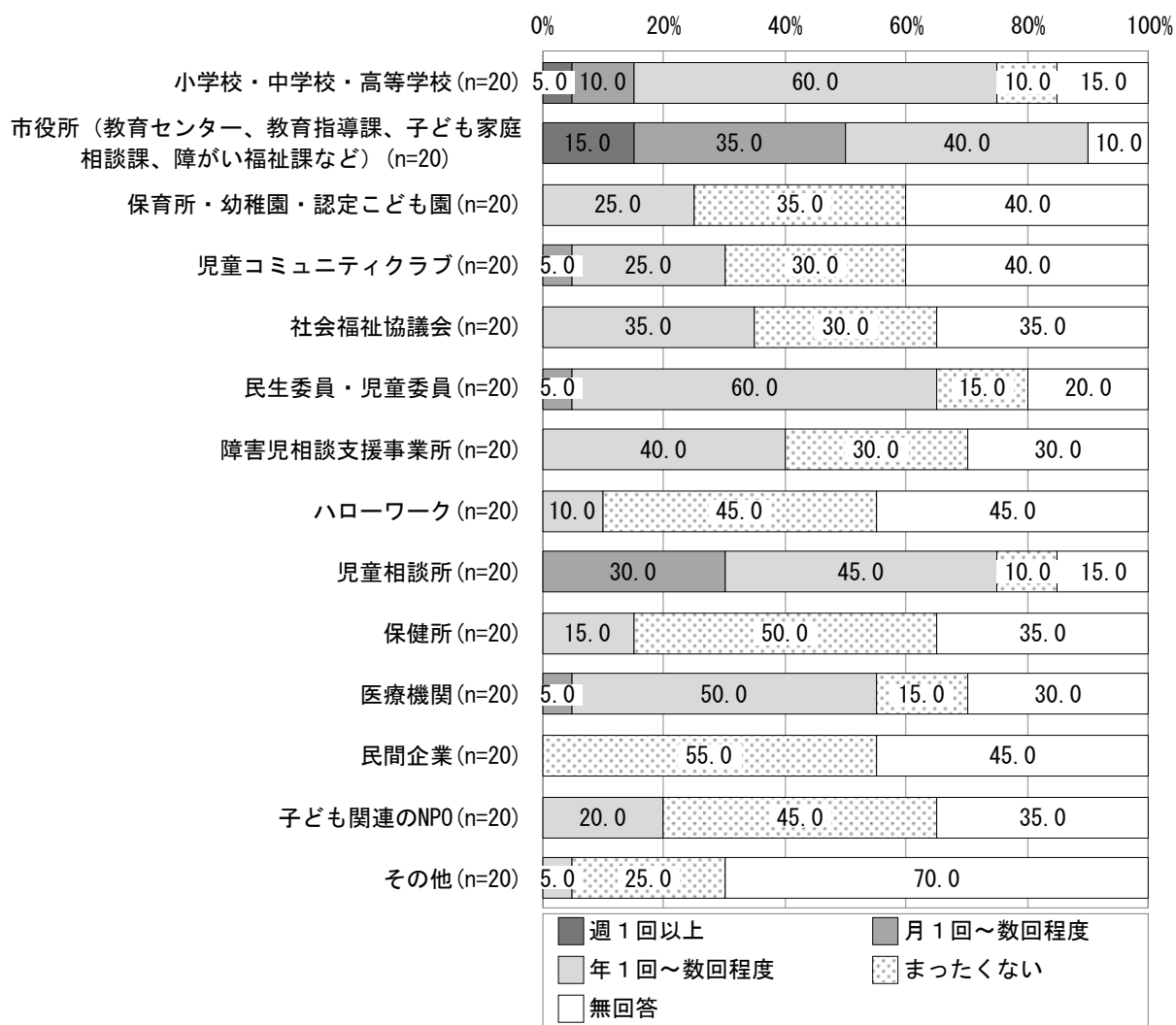
#### ヒアリング回答結果

回答
・スクールソーシャルワーカーや子ども家庭相談課につなげることが多い

問5-5 あなた、又はあなたの所属する団体や機関では、普段、貧困状況にある子どもの支援をする際に、他の部署・団体・機関とどのくらい連携することがありますか。(それぞれ1つ)  
 ※問5-4で「ある」と回答した方に質問

他と連携して支援を行う頻度で「週1回以上」の割合をみると、<市役所(教育センター、教育指導課、子ども家庭相談課、障がい福祉課など)>が15.0%と最も高く、<小学校・中学校・高等学校>が5.0%と続いている。

また、「まったくない」の割合をみると、<民間企業>が55.0%と最も高く、<保健所>が50.0%、<子ども関連のNPO>と<ハローワーク>が、それぞれ45.0%と続いている。

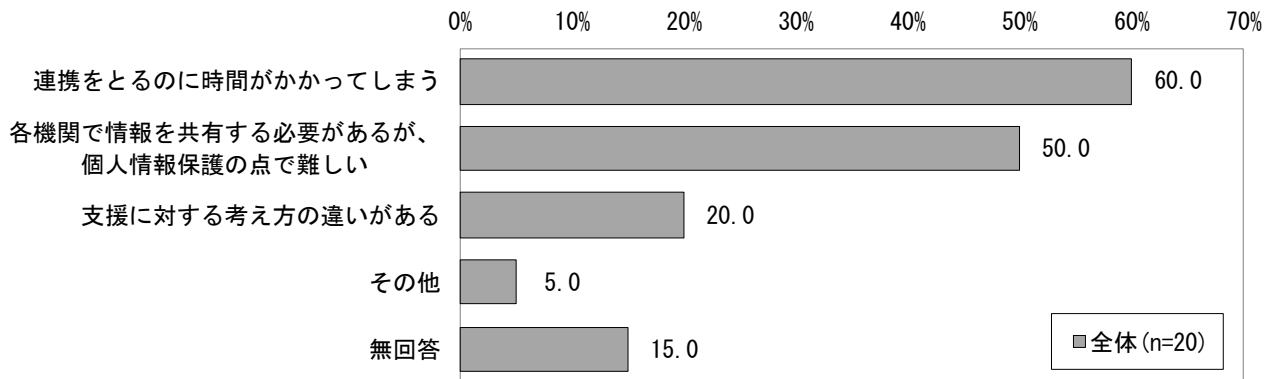


### ヒアリング回答結果

回答
・教育指導課、月1の会議で情報交換している
・医療機関については、生徒の許可を経て、生徒が受診した際にドクターから情報をもらう

問5-6 他の部署・団体・機関と連携する上で、課題となることは何ですか。(いくつでも)  
 ※問5-4で「ある」と回答した方に質問

全体では、「連携をとるのに時間がかかってしまう」が60.0%と最も高く、「各機関で情報を共有する必要があるが、個人情報保護の点で難しい」が50.0%、「支援に対する考え方の違いがある」が20.0%と続いている。



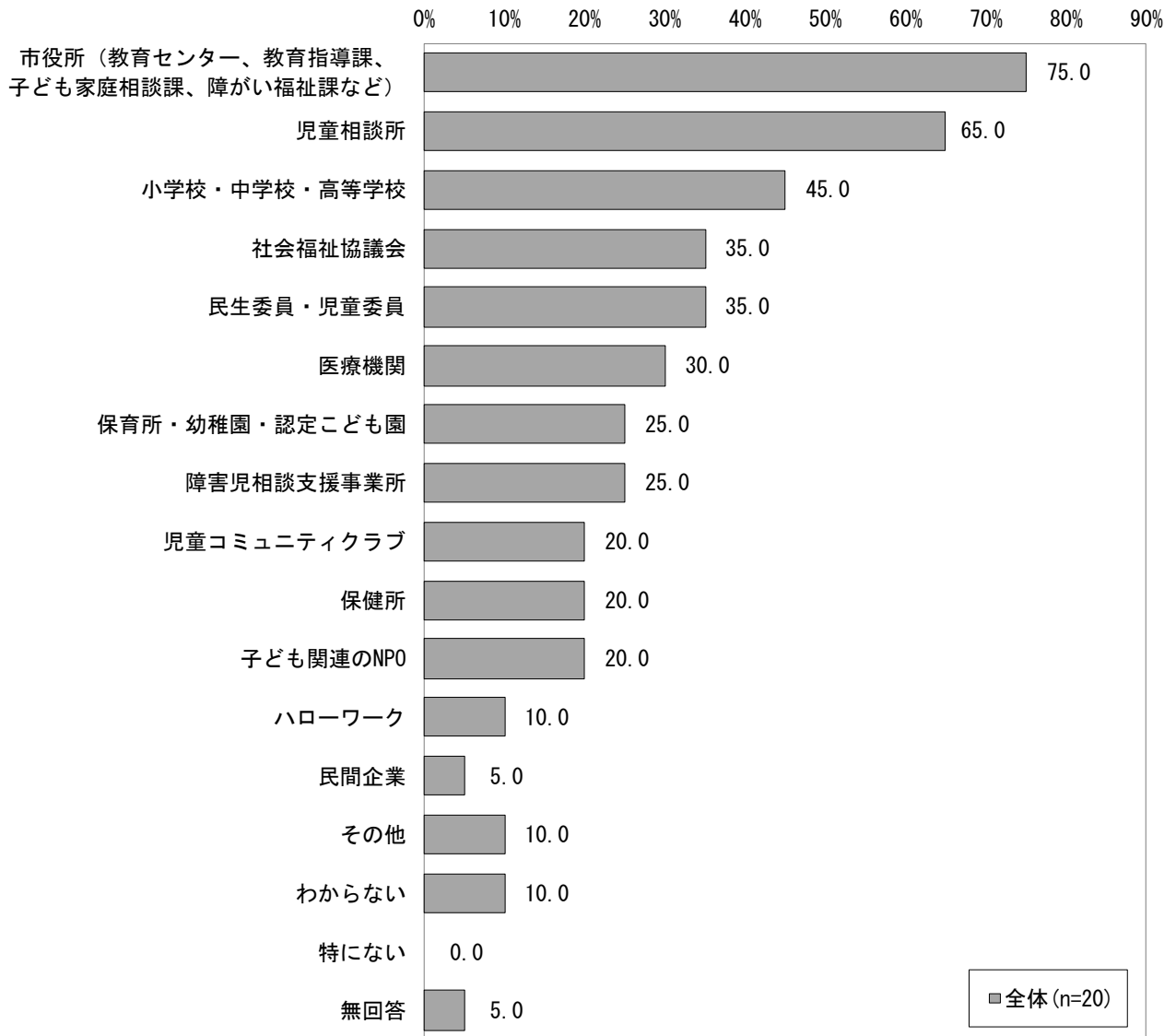
#### ヒアリング回答結果

##### 回答

・匿名で相談は進めたものの、個人情報保護の関係で、その先に進めない、手続き上が進まないケースがある

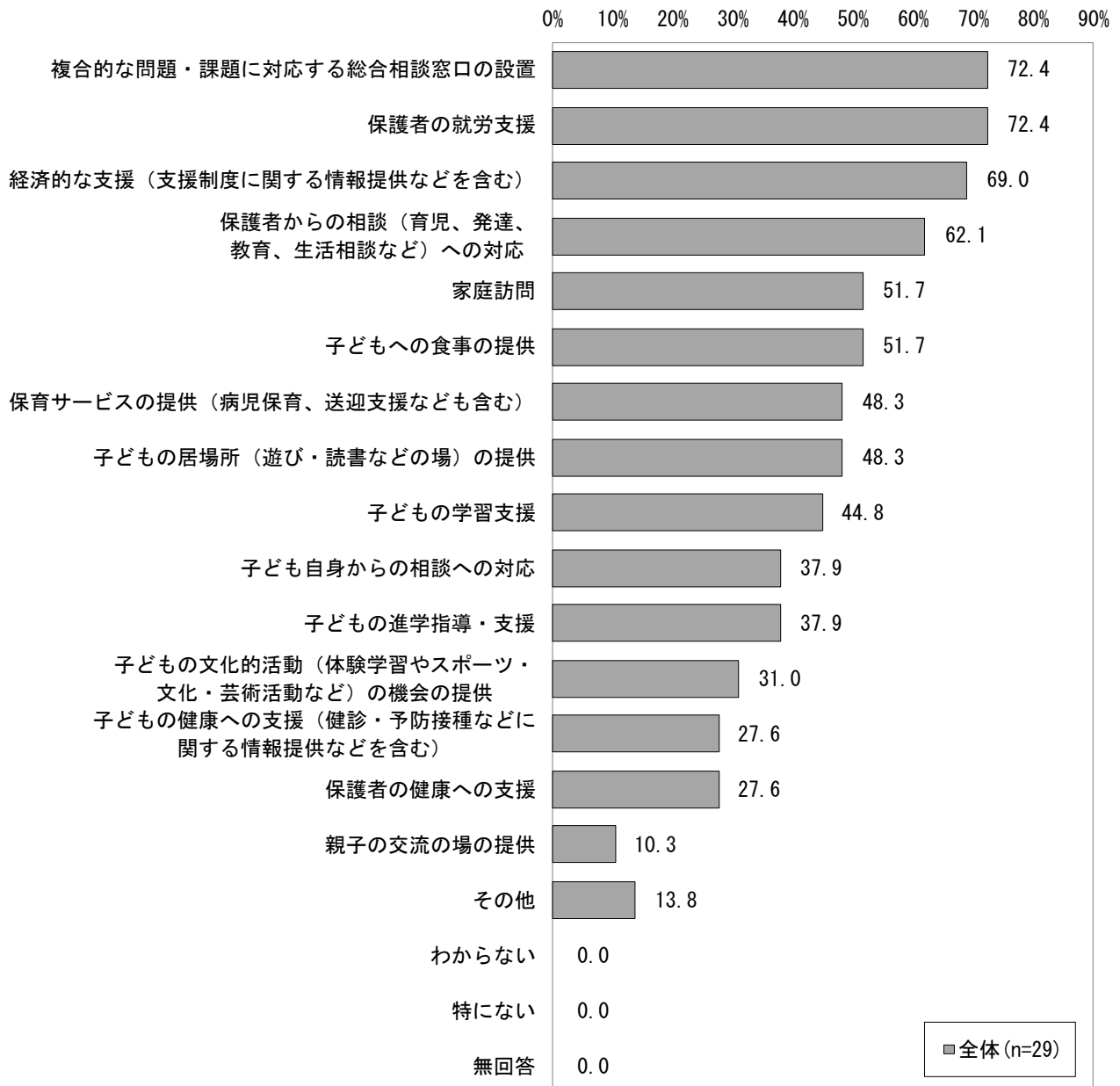
問5-7 今後連携を強化する必要がある部署・団体・機関はどちらですか。(いくつでも)  
 ※問5-4で「ある」と回答した方に質問

全体では、「市役所（教育センター、教育指導課、子ども家庭相談課、障がい福祉課など）」が75.0%と最も高く、「児童相談所」が65.0%、「小学校・中学校・高等学校」が45.0%と続いている。



問6 貧困状況にある子どもや家庭に対し、伊勢原市において今後特に必要な支援は何だと思いますか。(いくつでも)

全体では、「複合的な問題・課題に対応する総合相談窓口の設置」と「保護者の就労支援」が、それぞれ72.4%と最も高く、「経済的な支援(支援制度に関する情報提供などを含む)」が69.0%と続いている。



## ヒアリング回答結果

回答
<ul style="list-style-type: none"><li>・親、こども、家庭によって貧困の認識に差があるため、支援に入りたくても、門前払いとなることがある</li><li>・各家庭の状況を一律に自己評価できるチェックシートのようなものがあるといい</li><li>・普通ではない状況を客観視し、まず親や子が異変に気づくことが大切</li><li>・そして、異変に気づいた時に、親や子が容易に相談できるような仕組みが欲しい</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・母親や子が外国籍であり、日本語が通じにくい時の市のサポート体制が弱いと感じている</li><li>・学校から個別にボランティアをあたっている状況</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・乳幼児を自宅に残し、両親ともにハローワークへ出かけてしまった事例があった</li><li>・仕事を探すためのサポートがあれば欲しい</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・子ども食堂も行っているが、場所の確保が大変</li><li>・食べることは、勉強にもつながるため非常に大切なこと</li></ul>



問7 そのほか、貧困状況にある子どもや家庭の現状や問題、必要な支援などについてご意見・ご提案などがありましたら、お聞かせください。

**回答**

貧困状況にある「子ども」についての調査ではありますが、その多くが、親などの保護者が就労していないことが原因になっていると思われます。当所では今後とも、市役所様と連携して児童扶養手当受給者、生活保護受給者、生活困窮者等の就労支援を行っていきますので、よろしくお願い致します。

貧困状況として括るのではなく、保護者の心の貧困状況が、様々な課題を生んでいるように感じています。貧困状況の家庭への支援だけではなく、子どもたちが困難な状況にある時に家庭に支援が入れるような方策があるとありがたいです。

早期発見・早期解決が望ましいと考えます。些細なことでも生徒に何かあれば職員間での情報の共有は必須です。これから先も様々な関係機関と連携をとり、助言を頂きながら、職務に専念したいと思います。

- ・各学校区における朝ごはんの提供システムの構築
- ・学校の始業前の見守りボランティアの育成と配備システムの構築

・無償の学習支援の場所や子ども食堂が増えていることはありがたいが、住んでいる場所により利用のしづらさがある。巡回バスの活用や出張学習支援等、偏りなくアクセスできるような仕組みがあるといい。

・小学校では、保護者が朝起きられない、下の子がいて登下校に付き添えないなどの状況の中、保護者に対する登校支援のニーズが一定数ある。また不登校の子どもに対しても、学習支援や生活支援を行う、登校支援を担えるなどの仕組みがあるといい。持続可能な取り組みにするためには、社協の有償ボランティアなど仕組みができるといい。

・子どもの支援のためには、まずその保護者や家庭の支援が必要。子どもへの支援だけで、子どもの貧困からくる課題は解決できない。現状では、家庭を支える仕組みの弱さを感じる。保護者だけでなく家庭まるごと支える仕組みがまずは必要なのではと考える。

・困窮世帯の子どもの中には、親の離婚によって経済的に困窮してしまうケースがあります。ひとり親の収入のみでは十分な生活費が確保できない状況もある中で、離婚後に養育費を必ず受け取ることができるような制度を構築し、ひとり親世帯の経済的困窮を防ぐ支援が必要であると考えます。

**ヒアリング回答結果**

**回答**

- ・保護者や子どもに対する自立支援が必要

・朝ごはんの子ども食堂はおこなっているものの、伊勢原小学校の近くだけであり、他の学区と差が生じている

